

全財務局 管内経済情勢報告

(参考)

	前回 (元年10月判断)	今回 (2年1月判断)	前回の 基調比較	全局総括判断の要点
全局総括	<u>回復している</u>	生産に弱さがみられるものの、 <u>回復している</u>	➡	個人消費は、コンビニエンスストア販売が好調であるほか、ドラッグストア販売等が堅調に推移している。生産活動は、電子部品・デバイスが持ち直しているものの、海外経済の減速等の影響を受け、弱含んでいる。雇用情勢は、有効求人倍率が高水準で推移するなど、引き続き改善している。
財務局名	前回 (元年10月判断)	今回 (2年1月判断)	前回の 基調比較	各財務局の総括判断の要点
北海道	<u>緩やかに回復している</u>	<u>緩やかに回復している</u>	➡	個人消費は、コンビニエンスストア販売が順調となっているほか、ドラッグストア販売が前年を上回っているなど、緩やかに回復している。生産活動は、弱含んでいる。雇用情勢は、着実に改善しており、人手不足感が広がっている。観光は、拡大に向けたテンポが緩やかになっている。
東北	<u>回復しつつある</u>	<u>回復しつつある</u>	➡	個人消費は、スーパー販売が堅調であるほか、コンビニエンスストア販売やドラッグストア販売が前年を上回っているなど、緩やかに回復している。生産活動は、輸送機械が弱い動きとなっているものの、生産用機械は底堅い動きとなっているなど、一進一退の状況にある。雇用情勢は改善している。
関東	生産の一部に弱さもみられるが、 <u>回復している</u>	生産に弱さがみられるものの、 <u>回復している</u>	➡	個人消費は、スーパー販売額及び百貨店販売額が前年を下回っているものの、コンビニエンスストア販売額及びドラッグストア販売額が前年を上回っているなど、全体として回復しつつある。生産活動は、輸送機械、生産用機械、化学が減少しているなど、全体として足踏みの状況にある。雇用情勢は、改善している。
北陸	拡大に向けたテンポが <u>緩やかになっている</u>	拡大に向けたテンポが <u>緩やかになっている</u>	➡	個人消費は、ドラッグストア販売が順調となっているほか、百貨店・スーパー販売が緩やかに回復していることなどから、緩やかに拡大しつつある。生産活動は、電子部品・デバイスが弱含んでいることや生産用機械が横ばいの状況にあることなどから、全体では横ばいの状況にある。雇用情勢は、着実に改善しており、依然として人手不足感が強い状況にある。
東海	<u>緩やかに拡大している</u>	拡大の動きに <u>一服感がみられる</u>	⬅	個人消費は、乗用車販売が弱含んでいるものの、コンビニエンスストア販売やドラッグストア販売が増加しているほか、スーパー販売は緩やかに持ち直しているなど、全体では回復している。生産活動は、輸送機械を中心に高水準ながら弱含んでいる。こうしたなか、有効求人倍率が引き続き高水準となっているなど、労働力需給は引き締まっている。
近畿	<u>緩やかに拡大しつつある</u>	<u>緩やかに拡大しつつある</u>	➡	生産活動は、電気・情報通信機械等が低下しているなど回復のテンポが緩やかになっているものの、個人消費は、コンビニエンスストアやドラッグストア等の販売が堅調となっているなど緩やかに回復しており、雇用情勢も一層の改善が進んでいる。
中国	生産の一部に弱さもみられるが、 <u>緩やかに回復している</u>	生産に弱さがみられるものの、 <u>緩やかに回復している</u>	➡	個人消費は、ドラッグストア販売や家電販売が好調であるなど、回復しつつある。生産活動は、輸送機械や汎用・生産用・業務用機械が減少しているなど、回復の動きに一服感がみられる。雇用情勢は着実に改善し、人手不足感が引き続き強い状況にある。
四国	<u>緩やかに回復している</u>	<u>緩やかに回復している</u>	➡	個人消費は、スーパーやコンビニエンスストアが堅調となっているほか、観光が好調であることから、全体としては回復しつつある。生産活動は、輸送機械が持ち直しつつあり、プラスチックが緩やかに回復しつつあることから、全体としては、一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに回復しつつある。雇用情勢は、改善しており、人手不足感が続いている。
九州	<u>緩やかに回復している</u>	<u>緩やかに回復している</u>	➡	個人消費は、乗用車の新車販売が前年を下回っているものの、百貨店・スーパー販売及びコンビニエンスストア販売が堅調に推移していることなどから、回復しつつある。生産活動は、好調な電子部品・デバイスを中心に緩やかに拡大しつつある。雇用情勢は、有効求人倍率が高水準で推移するなど改善しているなかで、人手不足感が強い状況が続いている。
福岡	<u>回復している</u>	<u>回復している</u>	➡	個人消費は、百貨店・スーパー販売額などが前年を下回っているが、コンビニエンスストア販売額は前年を上回っており、ドラッグストア販売額が増加に転じるなど、回復している。生産活動は、自動車が増加を中心に足下の生産が弱含んでいるなど、横ばいの状況にある。雇用情勢は、有効求人倍率が引き続き高水準で推移するなど、改善している。
沖縄	<u>拡大している</u>	<u>拡大している</u>	➡	個人消費は、百貨店・スーパーやコンビニエンスストアの販売額が堅調に推移するなど、拡大している。観光は、入城観光客数が増加するなど、拡大している。雇用情勢は、有効求人倍率が高水準で推移するなど、改善している。

(注) ※ 2年1月判断は、前回元年10月判断以降、2年1月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。
 ※ 下線部が基調判断。